



今後における基盤づくりの年

群馬県中学校長会長 **渡邊 龍夫**

平成29年度が動き始めました。昨年度末に新学習指導要領が告示され、すべての学校でその趣旨及び内容等の理解を、本年度進めていただいていることと思います。

本会でも、本年度の基本方針に「新学習指導要領の趣旨及び内容等についての理解を深めるとともに、平成33年度からの全面実施及びその先行実施が円滑に行われるよう、研修を深める」ことを立項しました。全体研究協議会及び理事研修会等を通じて、校長としての理解を深めていただければと考えております。

また、5月30日に開催された第1回理事研修会でも話題となったのが、教職員の負担軽減のための業務改善です。

文部科学省が実施した2016年度公立校教員の勤務実態調査で、学校内勤務時間が週60時間以上の中学校教諭が57.7%に上るという結果が公表され、教員の勤務実態の深刻な状況が再

認識されました。

本年度群馬県教育委員会が立ち上げる「教職員の多忙化解消に向けた協議会」に本会として参加するとともに、本会の活動の中でも機会あるごとに協議できればと考えております。

このように、「新学習指導要領の円滑な実施のための準備」及び「教職員の業務改善の検討」の2点について、本年度本会をはじめいろいろな関係機関でいろいろな動きがなされることと思います。よって本年度は、この2点について「今後における基盤づくりの年」と言えると思います。

本会としても、本年度この2点について、どのように考え、どのように対応するか、方向性をしっかり出し、来年度以降につないでいければと思います。

ぜひ会員の皆様のお力をお貸しいただけますよう、よろしくお願い申し上げます。